

# 治療

THE JOURNAL OF THERAPY

家庭医／プライマリ・ケア医のための総合誌「治療」!!  
第一線の医療で求められる必要かつ実践的な情報を  
毎号独自の視点でお届けいたします。

●月刊：毎月1日発行 ●定価：2,700円（本体2,500円＋税8%）※増刊号・臨時増刊号を除く ●ISSN 0022-5207

<a href="#">最新号</a>	<a href="#">バックナンバー</a>	<a href="#">年間購読のご案内</a>	<a href="#">正誤表</a>	<a href="#">広告掲載について</a>
---------------------	-------------------------	--------------------------	---------------------	--------------------------

## 最新号



2014年10月 Vol.96 No.10

### 子どもの風邪

新しい風邪診療を目指して

定価：2,700円（本体2,500円＋税8%）

[正誤表](#)

#### 今月の視点

医療で“風邪”を診るということ

成人は年に数回、乳幼児はその数倍の頻度で風邪を引く。そのほとんどはウイルス感染症で、数日の経過で自然に治癒し、その結果抗体を獲得する。たとえば、赤ちゃんに対して強い症状を出すRSウイルス感染症も、何度か感染を繰り返すうちに軽症化していくことが明らかになっている。乳幼児の間にさまざまな感染を受けることは、将来の社会生活のためには必要であり、また自然なことであると考えられる。

わが国は世界一医療機関へのアクセスがよいために、多くの風邪症状の子どもが医療機関を受診している。“風邪を引いて自然に治る”という経過に、医療的介入が行われることが普通になっており、多くの場合は抗菌薬をはじめとするさまざまな投薬が行われる。その背景には、風邪の診断はきわめてあいまいで、さまざまなリスクをはらむために、医師がリスク回避のため投薬してしまうということがあげられる。しかし実際は、風邪に対するほとんどの投薬に効果はなく、逆に新たなリスクを生み出していることさえあると思われる。

医療的介入の最大の問題は、保護者（主に母親）の「自分が治した」という経験をずる機会を損なってしまうことである。その結果、母親は自然に治る風邪を、投薬のおかげで治ったと勘違いしてしまうのだ。風邪の最大の治療は母親によるホームケアである。人は苦しいときに助けを求めれば、ずっと覚えているものだ。子どもが風邪を引いたとき、愛情をもって看病された経験は母と子の絆を固いものにするだろう。医療者は投薬よりもホームケアのサポートをするべきなのである。

すべての医師には、「どこまでその医療が必要なのか？」を常に自問し、自らの診療行為を修正していく姿勢が必要になる。本特集では、プライマリ・ケア医が必ず経験する「子どもの風邪」を取りあげる。これを機会に、common diseaseの代表である風邪の治療を見直してみませんか？

西村龍夫 にしむら小児科 院長

#### 特集の目次

[ツイート](#)

[いいね!](#)



## 増刊号



「治療」2014年増刊号  
Vol.96

## 臨時増刊号



「治療」2011年5月臨時  
増刊号 Vol.93

今月の視点 (西村龍夫)

### ■総論

風邪に対する医療の役割の変化 (西村龍夫)

### ■風邪の診断

風邪は診断すべきか? (松下 享)

風邪とウイルス性疾患①—発熱とウイルス— (原 三千丸, 他)

風邪とウイルス性疾患②—咳嗽とウイルス— (板垣 勉)

発熱のリスクマネジメント—Hibワクチンと肺炎球菌ワクチン導入後の発熱児の外来診療— (深澤 満)

咳嗽のリスクマネジメント (西村龍夫)

### ■風邪のリスクを考える

短期的リスク①—急性中耳炎— (土田晋也)

短期的リスク②—鼻副鼻腔炎— (西村龍夫)

短期的リスク③—熱性けいれん— (田邊卓也)

短期的リスク④—急性肺炎— (黒崎知道)

短期的リスク⑤—その他の重篤な合併症 (見逃したくない疾患)— (園府寺 美)

保護者のリスク—保護者の心理的ストレスとその対応— (竹中義人)

### ■リスク管理の点から風邪診療を再考する

抗菌薬の弊害①—プライマリ・ケアの立場から— (草刈 章)

抗菌薬の弊害②—病院医の立場から— (堀越裕歩)

風邪薬は必要か? (田中敏博)

解熱薬 (吉田 均)

予防接種が風邪診療に与える影響 (石和田稔彦)

### ■風邪診療と医療制度

風邪診療と医療経済 (矢嶋茂裕)

過剰診療とコスト (金子英哲)

### ■ガイドラインの影響

副鼻腔炎のガイドライン (西村龍夫)

中耳炎のガイドライン (土田晋也)

気管支喘息のガイドライン (西村龍夫)

### ■これからの風邪診療—保護者の理解と支援のために—

保護者の役割と学びに向けて (福井聖子)

風邪診療の場を活用した保護者支援 (山本 淳)

すんなりわかる

実践! 子どもの風邪 (玉井友里子)

### ■従来の指導は正しいか?

発熱時に水分補給は大切か? (草刈 章)

咳嗽への対応 (西村龍夫)

### Series

タイムマシンに連れられて 30年後の未来医療 (3)

情報統合型インテリジェント手術 (橋爪 誠)

医者へのストレス, 患者の不満 (22)

治らない病気 (寺本研一)

私たちはこんな世界を生きている—アスペルガー症候群の当事者研究— (12)

再起動—きっかけは些細なことでした— (浦城 航)



「治療」2009年11月臨時増刊号 Vol.91



「治療」2009年3月臨時増刊号 Vol.91

増刊号・臨時増刊号リストへ

## ○次号予告

2014年11月 Vol.96 No.11

[ふるえブラッシュアップ](#)

— 原因はさまざま！ 知識を整理し誤診を防ぐ —

[トップページ](#) [会社概要](#) [採用情報](#) [お問い合わせ](#) [個人情報保護方針](#) [特定商取引法に基づく表記](#)  
Copyright(c) 2002-2014 NANZANDO Co.,Ltd. All Rights Reserved.

 [ページの先頭へ戻る](#)